

# 飯豊連峰保全連絡会 第6回会合

## 議事録

日時：平成23年1月25日（火）13:30～16:00

場所：喜多方市山都開発センター

### ■開会

事務局 坂本：

それでは定刻となりましたので、これより平成22年度飯豊連峰保全連絡会第6回会合を開会します。開会にあたり平田代表より一言ご挨拶をお願いします。

### ■代表挨拶

代表 平田氏：

飯豊連峰保全連絡会代表を仰せつかっております、新潟県関川村山の会の会長の平田大六と申します。あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、新しい新年を迎えましてなおいっそう努力されていると思います。日頃から保全連絡会につきましては、大変ご尽力を賜りまして感謝致しております。昨年も飯豊連峰では色々と皆様方に保全活動をそれぞれの地域で実証していただきました。お陰様で、環境省から活動が認められて東北地方環境事務所長から表彰状をいただいた次第でございます。これも皆様方の活動、またそれを周知してくれました関係の方々のご努力のおかげでありまして、ありがとうございました。本日は保全連絡会議に福島県喜多方市の会場においでいただきまして、ありがとうございました。年末から降雪がございまして、正月から大変大雪の状況になっております。その中でご参集いただきまして大変ありがとうございます。本日はご案内しました議題に従いまして、進めさせていただきますのでよろしくをお願いします。また予定の時刻では終了を15時30分～16時頃を予定しておりますが、時間が早く終わればそれによって会議を終了したいと思っておりますので、ご協力よろしくをお願いします。

事務局 坂本：

ありがとうございました。それでは幹事の皆様からも一言ずついただきたいと思っております。お願い致します。

幹事 船山氏（飯豊山岳会）：

皆様ご苦勞様です。山形県の飯豊山岳会の船山と言います。今年もよろしくお願ひします。

**幹事 平野氏（山都町ふるさいガイド協会）：**

地元の山都町ふるさいガイド協会代表をやっております平野と言います。よろしくお願いいたします。

**幹事 本間氏（新潟県山岳協会）**

新潟県山岳協会の本間と言います。よろしくお願いいたします。

**幹事 小椋氏（エーデルワイス山岳会）**

地元喜多方にありますエーデルワイス山岳会の小椋でございます。一昨日日曜日に私達は今年度の総会を開催致しました。今日の保全連絡会、その他これに類する会議がありますけれども、それに対する出欠をどうするか、参加をどうするかということを討議致しました。本日の会議は既に申し込んでおりましたので、今年度は参加しようということになりました。その他の会合については、審議未了で次回に見送ることとしました。要するに会員が高齢化しまして、時間はあるのですが体力がありません。若い人は体力はあるのですが、勤務を休んでまでこのような会議に参加できないと言う状況なのです。したがって、名前だけこういう会合に参加していることが、果たしていいことなのだろうか、自責の念を感じているところでございます。実際問題山に行つて保全の作業ができない状況なので、そのような私達が参加してもいいのだろうか、悩んでいるところでございます。

**幹事（代表） 平田氏（関川村山の会）：**

先ほどもご挨拶申し上げました、新潟県関川村山の会会長の平田大六と申します。

**幹事 藤井氏（下越山岳会）：**

新潟県新発田市、下越山岳会の藤井と申します。よろしくお願いいたします。私、6年間下越山岳会の会長をやらせてもらったのですが、今回、うちの会の佐久間雅義という方に、会長を交代しました。うちの会は連絡会に団体加盟をしておりますので、なかなか大勢は行けないのですが、飯豊の保全作業には会を上げて、お手伝いしようと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

**幹事 井上氏（小国山岳会）：**

小国の井上です。よろしくお願いいたします。肩書きが、NPO法人飯豊朝日を愛する会、小国山岳会と二つの名前になっておりますが、この二つの会は表裏一体の会として、法人として動くときはNPO、具体的な登山者愛好団体としては小国山岳会というような名称の区分け方をしておりますので、よろしくお願いいたします。

**幹事 薄氏（西会津山の会）：**

西会津山の会の事務局長をしております薄です。よろしくお願い致します。会長は今日仕事の関係上欠席しております。今回は事務局員の片岡と 2 人で出席しておりますので、よろしくお願い致します。

**事務局 坂本：**

ありがとうございました。議題に入る前に確認事項がございます。本日の会議は公開としまして、後日、ホームページ等で公開させていただきたいと思っております。また、議事録作成のため、発言時には最初に所属・氏名等を告げていただくようご協力お願い致します。では、はじめに本会議の議事進行についてですが、会則に「代表は会務を統括する」とありますので、平田代表にお願いします。

**代表 平田氏：**

それでは会則に従いまして、暫時私が進行をさせていただきますので、ご協力をお願い致します。座らせていただきます。それでは、事務局より本日の資料の確認をしますので、よろしくお願い致します。

**事務局 坂本：**

皆様お手元の資料をご覧ください。まず、1 枚目に議事次第。その次に出席者名簿。その次にニュースレター11 号。次に登山者カウンターデータの分析の資料。次に飯豊地域現地確認結果 次に重点整備箇所一覧図。次に平成 23 年度のカレンダー、最後に本連絡会の会則と添付してあります。落丁等ございましたら、挙手にてご連絡いただければと思います。

## ■議題 1 「平成 22 年度合同保全作業」の報告について

**代表 平田氏：**

ご確認いただけましたでしょうか。それでは、議題 1 に入らせていただきます。平成 22 年度の合同保全作業報告を事務局からお願いを致します。

**事務局 坂本：**

それでは議題 1 について説明させていただきます。添付資料①のニュースレター第 11 号をご覧ください。これは会員の皆様にも送付させていただいておりますが、平成 22 年 10 月 2 日（土）～3 日（日）、飯豊連峰の梶川尾根上部、丸森尾根上部において、今年 6 月 23 日の飯豊連峰保全連絡会第 5 回会合で決定された合同保全作業を行いました。10 月 2 日、天狗平ロッジに集合し、剣スコップや土嚢袋等の資材の荷上げを行うとともに梶川尾根の作業を行い、夜は門内小屋に宿泊しました。翌日は丸森尾根の作業を行いました。

梶川尾根上部の作業についてですが、作業箇所①標高約 1,620m 付近のガリー侵食部周辺

(通称トットバノカッチ付近)では、周辺は登山利用等によって道の複線化やガリー侵食による荒廃が進行していたことから、登山道の一部を閉鎖して植生を回復させるとともに新たな道が切り開かれていました。しかし、ここ数年の登山道利用によって、新道においても侵食が発生していることが確認されたことから、侵食が軽微なうちに新道を一時的に休ませて植生を回復させることを目的として、旧道を復活させるために以下の作業を行いました。旧道の一部において侵食の拡大が確認されたことから、登山道として再使用できるように、侵食部に土砂を堆積させ、雨水の流速を落とす目的で、麻製土嚢袋と現地の転石を用いて土留め工を設置する作業を行いました。同様の作業を、新道と旧道の合流点上部でも行いました。必要箇所雨水の排水路(水切り工)を設置しました。

作業箇所②の標高約 1,720m 付近のガリー侵食部周辺(フキアゲ沢源頭)ですが、当該箇所は平成 21 年度の合同保全作業地及びその周辺であり、以下の作業を行いました。昨年土留め工を設置した効果としてガリー侵食部に土砂の堆積が確認できましたが、一部土留め工の側面から土砂の流出が確認された為、修復必要箇所の手直しを行いました。ガリー侵食部に土留め工を追加設置し、また昨年の作業箇所の上部で大きく洗掘されている箇所が確認されたため、同位置にも新たに土留め工を設置しました。

作業箇所③の標高約 1,780m の大規模裸地部ですが、当該箇所は平成 21 年度の合同保全作業地であり、ガリー侵食部に土留め工を設置したことによる土砂の堆積が確認できました。また、その下部にある緑化ネット敷設箇所においては、上部からの土砂流入が止まったことにより芽吹きが確認されました。昨年の緑化ネット敷設箇所の下部にて、登山道と植生部の際の 2 箇所に、麻製緑化ネット 1.5 巻(1巻 1.2m×30m)を敷設する作業を行いました。ネット敷設後は風で飛ばされないようにピンでネットを固定し、微地形効果の創出とおもしを兼ねて、転石を置きました。

丸森尾根上部の作業ですが、丸森峰上部の標高約 1,550m~1,350m 付近の、雨水と踏圧によるガリー侵食等によって現在も荒廃が進行している箇所で作業を行いました。最上部にある昨年土留め工を設置した箇所で、修復必要箇所の手直しを行いました。中・下部においては、あらかじめ許可を得た登山道上の支障木を伐採し、その枝葉を資材として活用してガリー侵食部に木組や土嚢による土留め工を設置する作業を行いました。効果的な土留め工の手法を検証するため、土嚢袋と木組の組み合わせ、木組のみ、木組を縦や横等向き変えて設置するなど、試験的に様々な工法の土留め工を設置しました。必要箇所雨水の排水路(水切り工)を設置しました。

今回の作業では幸いにして 2 日間ともに天候に恵まれ、各自が役割分担をして作業を行い、計画していた作業をスムーズに完了することができました。昨年度に引き続き、NPO 法人飯豊朝日を愛する会からは作業全体の段取りや飲食料の提供等、子細に渡ってご尽力

頂きました。また、下越山岳会からは土嚢袋、胎内市からは門内小屋の使用についてと飲食物の提供を頂きました。当日は日帰りのみの参加者や、飛び入りで参加してくださった方、また事前に緑化ネット等の資材の荷上げにご協力頂いた方もいらっしゃいました。当日参加頂いた皆様や事前準備等の目に見えない部分でご協力頂いた皆様を始め、今回の作業に関わって頂いた飯豊連峰を愛する多くの登山者や山岳関係者、地域関係者の皆様に、あらためて厚く御礼申し上げます。当日は 16 団体、57 人に参加いただきました。以上で、平成 22 年度の合同保全作業の報告を終わらせていただきます。

**代表 平田氏：**

只今の報告につきまして、皆様からご質問やご意見をいただきたいと思えます。ご質問ありましたらお願い致します。

ございませんでしょうか。ご意見ありましたらお願い致します。

ご意見ないようございますので、もしまたございましたらその他のところでお願い致します。

## ■議題 2 各団体からの報告について

**代表 平田氏：**

それでは議題 2 に入らせていただきます。各団体からの活動報告ですが、マイクを回しますので、団体名と報告をお願いします。全ての報告が終わりましたら、ご質問などお願いします。

**飯豊山岳会 船山氏：**

飯豊山岳会としては、特に保全に関わることはしておらず、通年通りの登山道の整備を行っております。その中で、地蔵岳から目洗い清水間において、登山道刈り払いの際にヒメサユリを刈ってしまい、少なくなってしまうのではとのご指摘、ご意見をいただきまして、深く反省しておりますが、23 年度以降は全区間を一括発注ではなく、工区分けをしまして、ヒメサユリの支障のない時期にその区間は刈り払いするという方法と取ろうと思えます。以上です。

**山都町ふるさいガイド協会 平野氏：**

山都町ふるさいガイド協会ですが、当会でも刈り払いと登山道の整備を行っております。昨年度は倒木が少なかったのですが、今年度は地蔵山の下に倒木が一本あるみたいですが、刈り払いを行いました。それから 8 月に切合小屋周辺のゴミ拾い関係をやっております。それから 11 月に入りまして、新道に階段工が夏の雨で崩れましてその修復関係、また上部の登山道整備をやっております。あとは通常の作業だけで終わりました。以上です。

**新潟県山岳協会 本間氏：**

新潟県山岳協会でございますが、協会としましては山岳会の方々に周知して、参加するように呼びかけております。今年もそのような形で参加を呼びかけていきたいと思っております。以上です。

**エーデルワイス山岳会 小椋氏：**

エーデルワイス山岳会ですが、先ほども申し上げましたように飯豊連峰に関してはご協力できませんので、非常に残念に思っております。ただ、私共は毎年、飯豊ではなく喜多方市の東にあります雄国山に10月第1日曜日に清掃登山を行っております。去年は30数名参加しております。ただ、雄国山は登山者がとても多いのですが、清掃登山をやっても張り合いがないのです。ということは、ほとんどゴミがないのです。もう少しゴミがあればやりがいもあるのですが。それ以外にもなにかありましたら、元幹事の小荒井さんや金子さんもおいでなので、後で補足お願いします。

**関川村山の会 平田氏：**

関川村山の会ですが、私共は飯豊連峰は北の杵差岳がありまして、そこに取り付くと登山道が二つございます。整備活動はその二つの登山道を行政の関川村が毎年いたしております。頂上の小屋の修復、麓の大熊小屋の修復もしておりますが、頂上の小屋は国立公園に属しておりますので、色々と相談しながらやっているところでございます。途中の登山道の橋の整備などは先ほども言いましたように、行政がやっております。そのような修理箇所情報は、山の会が情報を提供したり、場合によっては整備をやったりしております。保全活動は現在しておりません。なぜかと言いますと、杵差岳の北の方は本山に比べまして登山者がずっと少ないことでありまして、現在この会でやっているような大きな荒廃箇所があまり見られないので、そのような活動は今はしていません。以上です。

**下越山岳会 藤井氏：**

合同保全活動には、先ほどもお話しありました梶川尾根上部と丸森尾根上部の保全活動に2名参加しております。それから直接保全活動には関係ないのですが、新発田市から唯一飯豊の稜線に上がる、湯ノ平温泉から北股岳に登るおういんの尾根があるのですが、皆さんご存知のとおり去年から赤谷林道が開放になりまして、湯ノ平温泉から北股岳に登る方、また北股岳から湯ノ平に下ってくる方がいるわけですが、ご存知のとおりかなり藪化等も進んでおりますので、登山道の開放になる前に、7月2日～3日、現状調査を行いました。以上です。

**NPO 法人飯豊朝日を愛する会：**

小国ですが、基本的にはニュースレターで先ほど坂本さんからお話しがあった梶川尾根、

丸森尾根の部分についてさせていただいております。その他につきましては、通常の刈り払い、パトロール、若干の手直しをしております。なお、小国の場合は飯豊と朝日両方を持っておりますので、この他に朝日連峰保全協議会の作業を行っております。以上です。

#### **西会津山の会 薄氏：**

西会津山の会としましては、独立して保全活動は行っておりません。ただ、昨年6月の会合で、鏡山の登山道が傷んでいるという話がありましたので、役場に話をしまして、夏に地元の自治区調査、役場と山の会と3者で登山道の荒廃の確認をしております。あわせて駐車場を作りたいということで、申し入れしておりますが、予算の関係もありまして、具体的な動きは出ておりません。もう一点ですが、祓川にかかる飯豊山の登山道ですが、底の橋がよく流されてしまい不便をきたしているということでありますので、吊り橋を架けたいと言うことで、役場と交渉しておりました。また井上さんから山形側の吊り橋の情報をメールで送っていただきまして、それを参考に吊り橋を架けたいと思っておりますが、業者に見積をお願いしたところ500万円ほどかかるということで、再見積でも400万円ということで、予算が大きくなりまして、役場とも話が進んでいない状況でございます。具体的な動きはこれからになるかと思いますが、今のご時世でありますので、予算措置が難しい状況であります。以上であります。

#### **喜多方ガイアの会 井上氏：**

私はガイアの会の代表の井上と申しますが、ガイアの会というのは皆さんと違って一般の自然環境に対する啓蒙などを行っている幅広い団体です。ということで、飯豊山の保全そのものの活動に参加したのは3年前に1回天狗ノ庭に3名ばかり行きましたが、先ほどもエーデルワイスからもありましたように、私達の団体も高齢者がほとんどということで山に言って活動できるという人はほとんどいないという状況です。従って、保全連絡会でガイアの会として何が出来るのかということについていつも考えてきたのですが、そもそもここに入ったきっかけは、その他の話になるかもしれませんが、飯豊連峰が世界自然遺産に登録の候補になったとき、私達ガイアの会も関心がありましたので、東京農業大学の小泉武栄先生に来ていただいて、講演会などを開いたことがあったので、私も山が昔から好きだったので飯豊山もよさは分かっていたので、少しでも関心を持っていただくような運動をできればと思って、この会には参加してきました。しかし、作業そのものは今申し上げたとおり出来ないわけですが、ただできるとすればそのような飯豊山の現状や皆様方が作業されているそのようなことを、市民の皆さんに伝えることはできるのかなと思っております。ただそのような会はこの会では合っているのかと言うことは私分かりませんので、是非そう言うことについても、後ほどご意見いただければ幸いです。そのようなことで発言させていただきました。

#### **中条山ノ会 亀山氏：**

中条山ノ会の亀山と申します。当会では、8月に胎内市と協力しまして市民登山を兼ねた清掃登山ということで、8月上旬に1泊で門内から足ノ松コースを歩きまして、清掃登山を行いました。飯豊の保全作業につきましては、総勢7名参加しまして、実質作業に参加したのは4名でしたが、その他荷運びとか小屋の食料担当ですとか協力をいただきまして、会とすれば始まって以来の人数で参加させてもらいました。足の松尾根もそれほど荒れてはいないのですが、部分的には掘れてきたところが出てきましたので、技術を身につけてあらかじめそれほど大きくなならないうちに保全をした方がいいでは、ということで、第一線に立てるようなメンバーを参加させていただきました。それと、足ノ松尾根には一昨年に立てた標識があるのですが、一冬で氷の飛礫によって削り取られていくのです。それで今年改良を加えまして、それを維持するために11月に入ってから防腐ネットを標識のところに巻いてきました。防腐ネットは透き通って見える物なので文字は見えるのですが、これについては成果がどのように出るのか来年の春に確認して、効果を確認したいと考えております。それと、長年黒川村時代から、門内小屋と頼母木小屋が直接自治体の管理体制に置かれていた訳ですが、来年度からは小国町さんがやっているような会のようなものを立ち上げまして、その会に参加しているもので維持管理をすればどうか、ということも胎内市さんとその点について話し合っているところです。もしそのような体制になったら、色々皆さんにもご指導を仰ぎながら維持管理できることを考えているところでございます。以上です。

#### **関川村山の会 横山氏：**

新潟県関川村山の会、横山征平でございますが、当会の状況につきましては、先ほど平田会長が述べたとおりであります。以上です。

#### **エーデルワイス山岳会 金子氏：**

エーデルワイス山岳会の金子と申します。うちの山岳会は先ほど小椋会長からお話しありましたけれども、設備の方の仕事をしています会員もおりまして、本山御西と登りまして、御西小屋のトイレがありますけれども、その水洗のバルブの点検や浄化槽の内部の点検を兼ねまして、数回活動している会員もおります。私はガイアの会にも所属しておりまして、天狗ノ庭の植生復元には参加させていただいておりまして、前年度は参加できませんでしたけれども、機会ありましたら参加させていただきたいと思っております。以上です。

#### **エーデルワイス山岳会 小荒井氏：**

エーデルワイス山岳会の小荒井と言います。保全の実際の活動ですが、山に行って仕事をするという年ではなくなりましたので、参加しません。全然参加していないのです。この会が始まった年から入っているのですが、なかなかできないですね。若い頃であれば、



10回も20回も登ったと思うのですが、駄目ですね。仕方がないので飯豊山の文化活動を応援していきたい、そして飯豊山大好きだ、というようになりたいなと言うように思うのです。今日車に乗せてもらった時に会長さんから、「こんなに雪降ったのだから、今年は夏飯豊山に雪たくさんあるよ」「そうだよ、秋まで残ります」というような話をしたら、そのような雪をおとぎ雪とおっしゃいましたので、よかったと思っております。私20年くらい前におとぎ雪という文章を書いたのですが、飯豊山の頂上付近御西に残る鏡雪なんというのは、弟がやってくるまで残っているというのは、会津の人たちはあのような雪をおとぎ雪と呼んだのです。このような文化を残していきたいと思うのです。今日のニュースレターの最初に書いてあった、梶川尾根上部御トットバノカッチの話がでましたが、こういうのも大事だなと思うのです。カッチというのは会津の人たちは皆、一番上の頂上をカッチというのです。どこの山も皆カッチという言葉があるのです。山頂近くという意味ですが、このような文化をいつまでも残していく、そしてそれを好きになると飯豊山をもっと好きになると思っていますので、このような活動を一生懸命やっていけたらと思っています。以上です。

**喜多方市山都総合支所 齊藤氏：**

喜多方市山都総合支所の齊藤と申します。本日は、本館を連絡会の会場にいただき、会合が開催されますことをありがとうございます。また足元の悪い中、遠路山都町までおいいただきまして、ありがとうございます。山都総合支所産業課が事務局になりまして、喜多方市を中心とした山岳団体の皆様方によりまして、飯豊連峰環境問題連絡会という組織を立ち上げて、飯豊連峰の特に福島県側の環境を良くしていこうということで、活動を始めて2年目なのですが、平成22年度については9月11日～12日の土日なのですが、切合小屋周辺のゴミ拾いという形で、昨年に続きまして実施しました。この連絡会を構成している9団体26名の方々に協力いただきまして、実施したところでございます。一昨年の最初のゴミ拾いの時には、山小屋の法事の関係でヘリが飛んでおりましたので、拾ったゴミをそのシーズン中に下に降ろすことができました。22年度についてはヘリを動かす機会がありませんでしたので、拾ったゴミは飛ばないようにモッコに入れて、一シーズン越している状況にあります。来年度の山小屋への荷上げの際に、ご協力いただいて降ろしたいと考えております。この会については、地道ながら皆さんにご協力いただいて続けていきたいと考えておりますので、よろしくお祈りいたします。

**関川村 農林観光課 船山氏：**

関川村農林観光課船山と言います。関川村では、先ほど関川村山の会会長より報告していただいたとおり、通常の登山道と避難小屋の維持管理を行っています。以上です。

**胎内市 商工観光課 加藤氏：**

胎内市商工観光課の加藤と言います。私共も先ほど中条山ノ会の亀山さんから話しありましたとおり、保全活動としましては 8 月の中旬に山の会さんに協力いただき、門内、頼母木までのゴミ拾い、清掃活動を行いました。通年になりますが、門内小屋と頼母木小屋を管理致しております、こちらにかかる、やはり山の上になりますので、破損箇所の修復修繕、バイオトイレの管理、このようなことを通年行っております。以上です。

**新潟県環境企画課 佐久間氏：**

22 年度の飯豊の方は、景観修繕で頼母木避難小屋の水場付近が水の影響で基礎が現れていたということで、そこ修繕をしております。また、門内小屋については 21 年の 9 月、台風 18 号だったと思いますが、外壁が破損しまして、その時に応急手当はしたのですが、同じような台風が来れば危ないということで、補強と言うことで 22 年の 6 月に実施しております。御西小屋の窓ですが、6 枚の修繕とドアノブの修繕を行いました。以上です。

**小国町産業振興課 渡部氏：**

山形県小国町産業振興課渡部と申します。NPO 法人飯豊朝日を愛する会の皆さんに委託をしまして、梅花皮小屋の管理をお願いしております。それから自然公園管理員に委託をしまして、登山道の整備を合わせてお願いしています。標高の高い部分は小国山岳会さんをお願いをしているのですが、平場の部分で登山道までアクセスする為の温身平の周辺を町と、周辺を森林セラピーという取り組みをしているのですが、その森林セラピーの案内人の会に協力をお願いしまして、草刈り清掃等をやっております。登山者が高いところまで登らないで、平場を周廻して帰ると言う方が最近非常に増えておりまして、ほぼ半々か平場の方が若干多いかなというくらいの人数になってきておりますので、できるだけ登山道ではないところもいい環境を保てるようにということで、早いうちに手を打って行きたいということで、考えているところでございます。以上です。

**山形県みどり自然課 佐藤氏：**

山形県みどり自然課でございます。飯豊山系については山形県では直接的には行っておりませんが、先ほど小国町さんの方でご発言いただきました登山道の管理、梅花皮小屋の管理の費用を負担させていただいております。

**置賜森林管理署 岩崎氏：**

置賜森林管理署の岩崎です。今回このような会は初めてでして、報告ということなのですが、私も合同保全作業に参加させていただきまして、それなりに活動させていただきました。あと、置賜森林管理署としては山形県側については、飯豊山系森林生態系保護地域ということで、原生的な森林生態系を守っていこうということで、その為の検討会を立ち上げておりまして、その中で小国山岳会の井上さんや環境省にも参加いただきまして、色々

な活動をしているところであります。特に森林管理署としましては、グリーンサポートスタッフということで、年間（5月～11月）、四人の方に延べ120日間程度温身平周辺の清掃ですとか、普及啓発などをやっていただいております。最近はナラ枯れやブナ枯れの被害も出てきておりますので、今後もそういったことへの対策をしていかなければならないということになってきているのですが、そういった点でもこういった会を通して、皆さんのお力を借りながら進めていけばと思っています。

#### 事務局 坂本：

それでは環境省羽黒自然保護官事務所の佐々木自然保護官補佐より、登山者カウンターの報告をさせていただきます。

#### 事務局（環境省 羽黒自然保護官事務所） 佐々木：

それでは、登山者カウンターの結果についてご報告させていただきます。添付資料2の平成22年度飯豊連峰登山者カウンター登山者数記録をご覧ください。東北地方環境事務所では、平成19年度より、丸森尾根、梶川尾根、ダイグラ尾根、大日杉、川入の各登山口に登山者カウンターを設置しております。

各登山口における設置期間や利用者数はご覧の通りとなっております。一つお詫びがございまして、川入においては6月16日に設置をして、11月19日に回収を行ったのですが、カウンターがうまく機能していなかった関係で9月10日までのデータしか得られませんでした。その為、得られた範囲でデータの分析を行いました。ダイグラ尾根の6月に注目してもらいたいのですが、入山者64人、下山者104人となっております。このデータのほとんどは登山者以外をカウントしていると思われまます。ダイグラ尾根の登山者カウンターは6月3日に設置を行ったのですが、この時点で檜山沢の吊り橋の踏み板がまだ設置されてなく、踏み板は6月29日に設置されました。ダイグラ尾根を登ったことがある方ならば分かると思いますが、ダイグラ尾根には吊り橋を渡らないと入山することができません。

6月30日は利用者が一人もいなかったもので、6月の利用者数はゼロに近い数値を示すはずですが、入山者が64人、下山者104人もカウントされています。この中には、スノーブリッジや徒渉してダイグラ尾根に入山した登山者もいるかもしれませんが、設置位置の問題からこの数値のほとんどが釣りや山菜採り、セラピーロード散策者などをカウントしていると考えられます。6月にこれだけ多くの数がカウントされてということは、当然7月以降についても、かなりの数の登山者以外をカウントしていると考えられます。

以上のことから、過去のデータも含めてダイグラ尾根のカウンターの数値は極めて信用性の低いものであることが今年度実証されたと言えます。これまでダイグラ尾根の利用者数は丸森尾根と同数くらいと考えておりましたが、実際はどの登山口よりも圧倒的に利用が少ない登山口であるということが今年分かりました。

それでは、各登山口のデータ分析について報告します。次のページをめくってください。

登山者カウンターは設置して4年経ちますので、今年は4年間のデータを比較して、登山利用の傾向について分析してみることにしました。過去4年間のどの期間にも設置されていた8月～10月のデータを用いて、年度別、月別、時間別、曜日別にデータを再集計して表したものがこのデータになります。修正がありまして、ページ右上の集計期間が、平成19年～20年となっておりますが、19年から22年の間違いです。すみませんが、修正をお願いします。最後のページに要点をまとめてありますが、まず丸森尾根から説明させていただきます。こちらは年度別に入山者と下山者を棒グラフに示したのですが、どの年度も下山利用が多く、丸森尾根は下山利用中心の登山口であると言えます。登山者数全体に注目してみると、平成19年度812人でしたが、20年度は771人、21年度は723人、22年度は654人と、年々減少傾向にあるようです。月別のデータですが、横軸が月、縦軸が登山者数を示していて、年度別によって利用者数を棒グラフで示しています。どの年も8月の利用が最も多いですが、9月10月でも、ある程度の利用が見られるようです。時間別のデータですが、こちらのグラフは各時間における各年度の利用者数を線グラフで表したものです。横軸が時間、縦軸が登山者数を示しています。入山者のグラフを見てみると、どの年も5時代から入山者の数が増え始め、ほとんどの利用者は9時までに入山していることが分かります。下山者の数を見ても、どの年も下山の時間帯は午前中から午後までの幅広い時間帯での利用があることが分かります。次に下の曜日別ですが、こちらも同様に各曜日における各年度の利用者数を棒グラフに表したものです。横軸が曜日、縦軸が登山者数を示しています。どの年も週末を中心に利用され、平日の利用は少ないことが分かります。

続いて梶川尾根です。年度別に見てみますと、入下山ともに多く利用されている登山口であると言えますが、どちらかというとな下山の方が利用者は多いようです。また登山者全体の数に注目してみますと、梶川尾根の利用者は年々減少傾向にあるようです。平成19年には1800人近く見られた登山者は年々減少して、平成22年には1100人程度と4年間で700人以上も減少している事が分かります。

月別に見てみますと、入山者下山者ともに登山の最盛期である8月の利用者の減少が目立ち、それが全体数の減少に繋がっていると考えられます。

時間別に見てみますと、入山時間は5時代から9時代が多くを占めており、下山者の時間帯は幅広いです。大小こそありますが、どの年も同じような傾向にあるようです。

次に曜日別ですが、どの年も週末の利用が多いですが、平日もある程度の利用が見られません。

続いてダイグラ尾根です。ダイグラ尾根は先ほどもお伝えしましたが、設置箇所の問題から得られたデータはかなり信用性の低いものなのですが、その上で分析を行いました。まず年度別ですが、どの年も下山者の数が多く、どちらかというとな下山利用が中心の登山口と言えます。

丸森、梶川、ダイグラと、天狗平の登山口はどの登山口も入山者数よりも下山者数が上

回っていますが、これは石転ビ沢が関係していると思われます。石転ビ沢にはカウンターは設置をしておりますが、登山者カードの分析から利用が多い登山ルートであることが分かっておりまして、石転ビ沢を登った登山者が、各3つの登山口を下山口として利用しているため、各登山口の下山利用が増加していると考えられます。月別ですが、特に入山者で顕著ですが、他の登山口は登山の最盛期である8月を過ぎると、利用者がかなり減少するのですが、ダイグラ尾根は9月10月でも、それなりの利用者が確認されます。これはやはり登山者以外をカウントしている為だと考えられます。利用の時間帯ですが、どの年も入山時間は5時代～7時代が多くを占めていますが、それ以降の入山も多く確認されます。これは同様に登山者以外をカウントしている為であると考えられます。下山の時間帯は幅広いです。曜日別に見てみますと、どの年も週末の利用が多いですが、平日もある程度の利用が確認できます。

大日杉ですが、年度別に見てみますと、入山下山ともに利用者数の多い登山口であり、多少増減はありますが、どの年も入山者下山者共に1000人～1200人の利用者数であると言えます。月別に見てみますと8月がやはり最も利用が多いと言えます。また9月のデータに注目して見ますと、他の年に比べて平成21年の利用が顕著であることが分かります。これは平成21年に5連休のシルバーウィークがあり、他県などから飯豊本山への登頂目的でこの登山口を利用したものだと考えられます。時間別ですが、どの年度も入山時間は4時～9時が多く、下山の時間帯は幅広いです。また、10時以降の入山も多く確認されますが、これはダイグラ尾根と同様に設置箇所の問題で、登山口のすぐ近くに設置してあることから登山者以外をカウントしているものだと考えられます。一つお詫びがありまして、平成19年度については時間データを欠損してしまいまして、この表には反映することができませんでした。申し訳ありません。続いて曜日別ですが、やはりどの年度も週末の利用が多いですが、平日もある程度利用されているようです。

川入ですが、年度別に見てみますと、入山下山ともに利用が多く、カウンターを設置した五つの登山口の中で最も登山利用の多い登山口であると言えます。入山者数は多い年で1600以上、下山者数は多い年で1800人であり、登山者の合計は3000人を超えることが多いようです。平成22年度については、9月10日以降のデータが欠損しているため、そのデータは反映されておられません。月別に見てみますと、8月の利用が多く、9月以降になると数が大きく減ることが分かります。また9月データにおいて、平成21年のデータが顕著ですが、大日杉と同様にシルバーウィークの関係であると考えられます。時間別に見てみますと、どの年も入山時間は5時から8時が多く、下山時間は幅広いです。曜日別に見てみますとどの年も週末の利用が多いですが、平日の利用も多く見られます。最後のページに、今説明させていただいたことをまとめさせていただきました。

また、来年度についてですが、ダイグラ尾根と大日杉については現在の設置位置では正確なデータが得られないことが分かりましたので、来年度は設置位置を変えて設置する予

定です。登山者カウンターの発表については以上になります。

**代表 平田氏：**

只今、事務局より登山者カウンターの報告について申し上げましたが、今のご報告ご質問なにかございましたら承りますが、いかがでしょうか。

**幹事 平野氏：**

一つお尋ねしたいのですが、山形県側のナラ枯れがひどいと思います。キクイムシ関係ですが、大朝日の方にもかなり見られているのですが、梶川尾根に直径一メートルくらいのナラの木が枯れております。たぶん今年の雪では倒木にはならないと思うのですが、その対策などは小国側でなにか考えているのでしょうか。喜多方側でも多いのですが、山形側では特にひどいので、よろしくをお願いします。

**小国町 渡部氏：**

山形県小国町でございますが、ご指摘いただいたとおり、一昨年からナラ枯れが飯豊連峰側にかなり入ってきております。特に梶川尾根はひどいと聞いております。また温身平地内でも若干確認され始めておまして、今後また広がるのではないかと心配をしているところでもあります。小国町の方では、まず登山道の散策路の直上にあるナラ枯れの木、倒木の危険性がある木に関しましてはその土地の所有者、森林管理署さんや町有地であれば町に確認をとって、切る物に関しては切る。それからどうしても切ることができないものに関しては、コースを迂回させるか、それも出来ない場合は別の方法を考えまして、安全第一で考えているところがございます。現在、まだ生きています木に関しましても予防的にナラ枯れ菌が発生するのを抑える薬剤を森林管理署さんと共同で注入作業をしておまして、その木の選定等につきましても、地元の山に詳しい方々にご協力いただきながら進めているところです。特に「この木」というようにご指摘いただけるのであれば、是非教えていただければ非常にありがたいと考えておりますが、いかんせん非常に広がりが高く、対応が打ちづらい、しかも止めることもほぼ不可能に近いということで非常に手をこまねいているという状況です。

**山形県みどり自然課 佐藤氏：**

山形県みどり自然課です。ナラ枯れ対策については、山形県では森林課が主体になってやっていますが、ご指摘のとおりナラ枯れとブナ枯れの被害は大きくなっております。これ以上拡散しないように対策を取ってきたところではありますが、そのような対策は現実的にももうできないような状況で、特定のナラの木を守るといったそちらの方に添加して参ります。学校林ですとか、神社内の木だとかそういった計画上重要な箇所の木を守るというような状況になっておまして、現在手をこまねいているところでもあります。

もう一点、登山道の安全面から申しますと、ナラ枯れで4、5年で主な枝が落ちてくるというような状況になります。これについては今後相当厳しい状況になってくると思われまますので、管理委託しております方々、県自然公園管理員、国有林でありましたら森林管理署さんのご協力を得ながら、支障木の撤去など進めて参りたいと考えております。

**代表 平田氏：**

ありがとうございました。ナラ枯れのことでご意見などありましたら、お願いします。またその他にご意見ありましたらお願いします。

**NPO 法人飯豊朝日を愛する会 井上氏：**

登山者カウンターの記録が発表されましたので、それに関しまして補足的になりますが昨年一年間の小国町、天狗平から登った方の登山者カード、とりあえず入力作業は終わっているのですが、詳細な分析は現在進行中です。とりあえず入山者数だけ拾って参りました。それによりますと、6月～11月までのカウンターが設置されていた間に、梶川尾根が469人、丸森が193人、ダイグラ尾根が84人、石転び沢416名、石転びの出合いまで、13名、その他特定不可が64名おります。カウンターとカードを比較しますと、登山者カード記入率、丸森尾根が56パーセント、梶川尾根が52パーセント、ダイグラ尾根21パーセント。つまり、他のところでは50パーセント少しであります。ダイグラ尾根はその半分以下の登山者カード記入率となっております。恐らくこのことが先ほど佐々木さんから報告があったことと照合すると思しますので、今後もう少しデータを詳しく分析したいと考えております。昨年度につきましては、飯豊町さん、喜多方市さんをお願いしまして、登山者カードをお借りして分析させていただきましたが、昨年の分については現時点ではまだ行っておりません。今後できればまた昨年同様お借りすることをお願いしていきたいと考えておりますので、その節には関係各位のご協力をお願いできればと思っております。

**代表 平田氏：**

ありがとうございました。他にご質問などありませんか。ございませんでしたら、只今から10分ほど休憩させていただきます。15時前から再会させていただきますと思います。よろしく申し上げます。

(休憩)

### ■議題3 来年度の予定について

**代表 平田氏：**

それでは議題3に入らせていただきます。来年度の予定についてですが、事務局お願いします。

**事務局 坂本：**

来年の予定についてですが、来年度の第7回会合は6月頃に実施したいと思います。会員の皆様には詳細な場所や日時が決まりましたら、追って郵送にてお知らせいたします。お手元に資料④重点整備箇所一覧図を配布しておりますが、来年度の合同保全作業を行う場所について、候補案等がありましたら、挙手にてご意見お願い致します。

**NPO 法人飯豊朝日を愛する会 井上氏：**

資料3に裏磐梯自然保護官事務所が作成した、飯豊現地調査報告書というものがありませんが、まずこの報告をいただき、その中から検討してみたいでしょうか。

**事務局 坂本：**

はい、それでは、裏磐梯自然保護官事務所より説明をお願いします。

**裏磐梯自然保護官事務所 福地：**

裏磐梯自然保護官事務所の福地です。平成22年10月6日～10月8日にかけて、飯豊連峰の福島県側の登山道及び各施設の状況確認を行いましたので、ご報告します。次年度の飯豊連峰保全連絡会保全作業候補地として、名前があがっている草履塚周辺、飯豊山から西側の斜面、駒形山から西側の斜面、草月平周辺及び天狗の庭の荒廃状況を確認しました。・切合小屋近くについては、登山道から西側の斜面が広範囲に裸地化しております。長い歳月で裸地化が進んだように思えます。草履塚周辺についてですが、草履塚から切合小屋側の斜面については洗掘と裸地化が進んでいるように思えます。チングルマ等の草本植生帯となっており、表土下の砂礫質の地層が剥き出しになっています。登山道から流れた水が更に周辺の湿地帯を洗掘しているように見えます。より上部での水管理が必要と思われます。ツツジ類のマット状の木本植生が優占している。飯豊山西側についてですが、ツツジ類のマット状の木本植生が優占している。登山道を中心に裸地化が進み、マット植生が分断されて島状になっている。各島も周辺から土壌の流出と乾燥が進んでいるように見え、放置すればいずれ完全に裸地化すると思われれます。駒形山西側についてですが、飯豊山西側と似た状況で荒廃が見られます。草月平周辺についてですが、草本が優占する湿原地帯でニッコウキスゲをはじめとしたお花畑のスポットになっています。登山道を中心に周辺に裸地化が進んでいます。天狗の庭についてですが、平成21年度の保全作業実施箇所。湿地帯の裸地部に植生ネットが施工されています。

平成20～21年度に植生復元工事を行った玄山道分岐については、まだ目立った回復は見られませんでした。なお、登山者は植生ネットの合間を歩くよう想定していますが、特にネットの説明や立ち入り禁止の標識もないため、登山者が知らずにネット上を歩いていることが心配されました。今後、施工箇所での標識の設置も要検討と思います。三国小屋か



ら天狗岳に向かう途中で過去に植生ネットを施工した箇所がありますが、そこについてはネット上に植生の回復が見られました。川入登山道の洗掘ですが、次年度の候補地の話には挙がっていませんが、川入登山道の洗掘がかなり目立ちました。ただし、簡単な水切り工事を行うだけでも浸食を押さえられそうな箇所も見られるため、取り急ぎ水切りで対処し、のちに土留め工を施工する必要があると思われます。以上です。

**代表 平田氏：**

ありがとうございました。只今の報告の中でご意見などありましたらお願いします。

**エーデルワイス山岳会 小荒井氏：**

只今ご報告いただきましたが、例えば風衝地について、荒廃しているとありますが、こちらは昔から写真のような状況でありました。飯豊山の西側については、昔からこのような状態であって、荒廃が進行していると言うわけではないと思います。そのように見ていきますと、あまり候補地は見あたらないように感じます。

**中条山ノ会 亀山氏：**

この資料には候補地ということていくつか上がっておりますが、過去の状況等も踏まえて、保全の手法等も考慮して、合同保全作業地を決定した方がいいのではないのでしょうか。

**代表 平田氏：**

只候補地と言うことではなく、全般的な保全のやり方についてのご提案でありました。ありがとうございました。候補地と言うことで、来年度の活動の場所を今日決めさせていただきたいと考えておりますので、続いて話を進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

**裏磐梯自然保護官事務所 福地：**

先ほどの飯豊山の西側については候補地に入れない方がいいのではとご意見をいただいたのですが、私も自然の今の状態というのが果たして人の影響によるものなのか、悪い状態に進んでいる状態なのかどうかということをしっかり見極めてやる必要があると思いますので、貴重なご意見だったと思います。おっしゃられるとおり他でやっている草地の湿原の植生復元など、草本類ではなく、ツツジ類の木本の低木類が優先しているような場所ですので、そもそもこのようなマット上の植生があることは間違いないと思うのですが、こういった島状になった小さい状態のマットがひっくり返って分断されているような状態というのがそのような方向に進んでいる状態なのかどうか、というところをしっかりと見極める必要があるのかなと考えておまして、山形大学の菊池先生、ご意見あればお聞きしたいと思うのですがいかがでしょうか。

### 山形大学菊地氏：

山形大学農学部の菊地と申します。先ほどのお話ですが、山、特に高山地の自然経過というのは、いわゆるモザイクと申しまして、様々な種類のパッチと申しますが、小さな集団がその立地環境に適応して育っています。ですので、先ほどありましたが風衝地、風当たりの強いところ、そういった風上に適した、風上であるが上の地形ができておりますし、その地形および立地環境に適応したような植物が生育しております。逆に風下側であれば、風下に適したような植物群落があるということになります。ですから、そういったそれぞれを以前と同じような形で保全していくということは大切なことですが、今見極めなければならぬところは、ここで皆さん一生懸命やられていることは、登山利用に関わって、従来、以前からの景観が急激に移り変わっている、変化している場所はどこなのか。あまりにも変化が急激に起きているところはどこなのか、それを見極めた上で、そのような場所に人が少し手を加えたということで、以前の元に戻すというか、以前の姿に近づけることができないだろうか、ということをお考えのところだと思います。その中で、今日資料で候補ということで、紹介ありましたが、その中で登山で利用した人が通るということで、影響を受けているのはどこなのだろうか、ということを選んでいただけたらいいのではないかと気がしています。以上です。

### 代表 平田氏：

今、先生がおっしゃったような観点から、具体的におおよその場所をご指摘いただけたらと思います。先ほど、井上さんから福島県側というような一つの方向をいただきましたが、ご意見いただけたらと思います。

### 幹事 平野氏：

福島県側ということですが、今小荒井先生が言われた、草履塚ないしはこの付近の地形なのですが、私も30年来飯豊に登っておりますけれども、この地形はほとんど変わっておりません。ということは、草履塚の下の地形なのですが、これは雪が多すぎて年間1ヶ月か二ヶ月くらいしか地面が出てこないのです。この部分を工事するとなると大変なことになりますので、なにをやっても雪で全部流されてしまうと思います。それから風衝地形の部分なのですが、ここは本山の下にもあります。この地形もほとんど変わっておりません。私の記憶の限りなのですが、30何年くらいは変わっていないと思っております。ただ、下の方、川入から登っていくコースなのですが、地形が悪いところは別な道ができています。ここを通らせないようにして、倒木など入れているのですが、なかなか人が通っていかなくて、昔登ったところをそのまま登っていったということがあります。そして、あそこの地形というのは変遷が多いのです。要するに昔の白装束で登っていった時に、わざわざ登っていった時の地形、ちょっと林の中に入っていただくとすぐに出てくるの

ですが、変遷しながら変遷しながらああいう状態になっているので、あまりいじらない方が有効な手段の気がします。というのは、崩れた場合におきましてはそこに別ルート、地元での昔の道路なのですが、作っております。それで、分配しながらなんとか今の原型があるような感じになっておりますので、福島県側が一番悪いのは玄山道あたりですか、その付近とか一部しかないような気がするのですが、いかがでしょうか。井上さん。

**幹事 井上氏：**

はい、それではですね、この保全連絡会を立ち上げるときの基本に戻るべきなのだろうと思います。その時に、どこを保全していくのかと言う部分では大きく二つのポイントがあったと思います。一つは、それが人為的なものであるのか、自然的なものであるのか、ということをごさいました。それで、自然的なものについてははいじるべきではない。それはそのままにすべきであろうと。それから、もう一つは進行しているか、安定しているか、ということをごさいます。つまり、安定しているのであればとりあえずやるにしても後回しでもいいのではないかと。まずは現在侵食や裸地化が進行している部分を優先的にやりましょうというのが確認されたかと思えます。やはりこのところは原点に戻ってやるべきだろうと思います。更にこれまで何年にもわたりまして、保全作業を行って参りました。その結果、ノウハウがかなり蓄積されております。先ほど私が申し上げました、飯豊から若干遅れる形になるのですが、現在朝日連峰でも同じようなことをやっております。そこでノウハウの蓄積もごさいます。そのようなことから、具体的な方法はどうするのか、というような視点も考えていったいいのではないかと、思えます。それで今話にあったような部分を私なりに分析をしてみますと、例えば切合周辺の部分についてはケルンがあるのですが、ケルン以外のところには大きな石、例えば直径 20 センチ程度の石というのはほとんどないのですね。恐らくケルンを作ることによって、微地形、小さな地形が失われていった結果、今のような形態になったと思われませんが、それも核心は持てないところで、この部分については、あの時点でも切合周辺の裸地化の部分については後回しでもいいのではないかと、といった話になっていったのだろうと思います。もう少し色々なものを詰めてから議論に上げましょうということであると思えます。

それから、草履塚につきましては、草履塚の部分は大きく二つに分かれるだろうと思います。いわゆる登山道本体そのものと、登山道の裏側に植物が全く生えないところをごさいます。その部分については、小荒井先生のおっしゃるとおり、おとぎ雪と同じような形で、植生がコケ植物くらいしか生えない部分だろうと思います。ただ登山道そのものについては、この写真でも分かるとおりにそこから流れ出る水が登山者の歩く部分、それを伝わってガリー侵食が形成されている。更にそこからトラバースするあたりについては、だんだんと植物の黒い土が下に下がってしまう部分も見受けられる。そのようなことから、人為的なものはあるだろうと。登山道そのものについてはです。また登山道が複線化しておりますので、また昔テントを張ったりして、拡大をして裸地化が広がってしまったよう

な部分もございます。これについては、人為的なものと言うのが妥当だと思います。ただ、問題はそれが進行しているかどうか、ということですが、現在の進行の速度がどうであるかというような部分を考えるべきであろうと思います。飯豊山の三角点から下る部分、駒形山から下る部分なのですが、あそこはおっしゃるとおり風衝地でございます。本山の小屋からずっと続いている訳ですが、風衝植生の問題点、どのようになるかということについては、実は朝日連峰で現在やっております。三方境という部分が極めて参考になってくるだろうと思います。この部分について問題になるだろうと思われるものは、歩いていて分かると思うのですが、三角点から下っていく途中、登山道の大きな石の下がえぐられているのです。大きな石の下が水流によってどんどん侵食が進んでいる、登山道の周りはさほどではないのですが、登山道そのものの部分が水によって深く掘れている、風衝地そのものというよりも水量をどうするのか、という部分が考えられるのだろうと思います。もしここをやるとすれば、現在朝日連峰で行っているのと同じ工法を検討すべきだろうと思います。ただ、朝日連峰もまだ完成している訳ではなく、たまたま朝日連峰については、以前ヤシを張ったところでそのヤシが阻害して植物の復元が遅れている、ほとんどないということがありましたので、そのヤシを剥がしてそこに詰めるという工法を現在やっております。ただ、ここにはございませんので、具体的な方法になると石組みによって流速落とす。ただ、その石組みをよほどしっかりしないと難しい場所だろうと考えています。

それから、草月平付近につきましては、登山道が複線化しているのですが、登山道の拡幅もさることながら、実は登山道の下側、雪が消えた直後あたりに歩いていただくと一目瞭然なのですが、池塘だったと思われるところがほとんど砂で埋まっております。登山道のすぐ下の池塘は細かい砂粒でほとんど覆われています。これは雨が降った日に歩くと分かるのですが、登山道に段差があるものですから、上から来た水が登山道にぶつかって真砂土、いわゆる風化した花崗岩を砂粒に変えてしまってその砂粒が、人間が歩くものですからある程度いつでも移動できる状態におかれまして、それが水でどんどん流れて下の草原を埋めている。また登山道を拡幅しているという状況があるようでございます。

また最後に、長坂に部分につきましては、ものすごく深く掘れているというのは一目瞭然で誰もが驚くところなのですが、先ほどおっしゃられたとおりに、信仰登山の時代からずっと続いてきたものでありまして、場所によってはもしかしたら人為的に掘った箇所もあるのではないかと、いうように思われるルートもございます。そして、下（路盤）そのものが硬い岩の場所もございまして、現時点で進行しているというのは見られないです。なぜかと言いますと、一番底は堅いですし、両側の斜面はコケが生えております。更にそのコケの上、一番上の黒い土が侵食が進んでいる時は上の方に垂れ下がってくるのですね。垂れ下がってドサッと下に落ちるといった現象が見られるのですが、あそこの場合ですとそれがほとんど、と言いますか全く見られないという状況でございます。ですので、現時点ではあそこが侵食している、侵食が進んでいるようなことは考えにくい。むしろ侵食

しているとすればその迂回路、迂回路については侵食が激しく進んでいるところがあると思います。この部分については、丸森尾根でやったような方法、まだ丸森尾根も試してございますが、粗朶を使うなり、粗朶と土嚢などの組み合わせによって、防げる可能性があります。せっかく木製階段を作っていただいたので、そのようなもので迂回した間にある程度の措置を加えていただければ、恐らく安定してくるだろうと思います。

そのようにして消去法的にいきますと、果たしてどこがいいのだろうか、整理をしていくのがよろしいだろうと思います。基本、一番最初に戻りますが、人為的なものかという点では、切合の部分を除いてもいいのかなと、現段階では。それから、進行しているかどうかという点では、川入の深く掘れた部分というのは、省いてもよろしいのではないかと。それから、具体的な方法、現時点でできるのかという点では、本山の三角点からの下部の部分について、適切な対応が取れるかどうか、試してみる価値はあるかと思いますが、朝日連峰の結果も注目をしながらその結果を踏まえた上で試してもよろしいのではというような感じがします。それから、草履塚については、進んでいるかどうかと言う部分については私にも図りかねる部分もございます。路面まで進んでしまっておりまして、両側に拡大しているという部分ではない、少しずつ狭まっているのではないかなと感じております。現時点で、明らかに人為により、更に進行しており、具体的な工法がある、ということとなると、草月平周辺あたりが、消去法的に一番いいのではないかという気が致します。以上です。

**代表 平田氏：**

只今、小国山岳会の井上さんからいくつかの条件をご説明いただきまして、今のおっしゃる草月平周辺を候補に提案されましたが、皆様方いかがでしょうか。

**ニュージェック川端氏：**

ニュージェックの川端です。私共平成18年から、実証試験などやらせていただいている中で、今おっしゃった井上さんの整理でいいかと思うのですが、合同保全作業という観点で一つ申し上げたいのが、近年飯豊の合同保全作業に新しい方がどんどん参加されてきているようになっていて、技術的なことをほとんど分からない状態で作業に参加されている方がかなりいらっしゃるような感じがしております。今回、梶川尾根、丸森尾根でやったときも何をやればいいのか分からない、という方もいらっしゃいました。そろそろ技術的なことについて、もう一度皆さんでおさらいするということが必要な時期に来ているのではないかというように思っています。私も草月平というのは非常にいい場所かなと思っております。それに合わせて草月平のすぐ近くに御西小屋がございまして、御西小屋の近くで実証試験を行った箇所もございます。そういう場所を一度皆さんで見させていただいて、どういう工法をどういう技量で設置したのか、それがうまくいっているのか、駄目なら駄目でどのようにしなければならぬのか、その辺を一度山の上

で見た上で作業に入れる場所がいいのではないかと、思っていて、草月平もしくは御西小屋あたりがいいのではないかと、思います。以上です。

**代表 平田氏：**

ありがとうございました。現状を見てから場所を決めると言うことでしょうか。

**ニュージェック川端氏：**

今決めてしまえばいいと思うのですが、草月平や御西小屋あたりだとそのような条件に合致するのではないかと、ということです。

**代表 平田氏：**

はい、それでは、草月平やらせていただくということでいかがでしょうか。

**中条山ノ会 亀山氏：**

御西の周辺で大賛成なのですが、ただ現状の参加人数を見ますとあそこで日程的に組んでやるというのは、去年までの方式では無理があるのではないかと、思います。たとえば少人数に分けてやるなど、そのような方法を合わせて提案していただければいいのかなと思うのですが、いかがでしょうか。

**幹事 本間氏：**

今亀山さんからお話しありましたが、非常に人気が高いと言いますか、参加率が良くて人数が多くて小屋には泊まれないという状況も発生しているとの話も聞いておりますので、それだけの人数が揃うのであれば、同じ日程でも二箇所ほどに分けていただいた方がいいかと思えますし、先ほどの風衝地形などもなるべく手を付けない方がいいのですが、ただ大雨の時に水流が発生するとその水をうまく誘導してやらないと砂礫が流れていくという状況が見られますので、大掛かりではなくともいいのですが、少し手を加えて水流を弱めてやるという程度のものはやはりやった方がいいのではないかと、思います。

**代表 平田氏：**

只今のご意見はその場所によって色々なやり方などについてのご提案でございました。今の候補地でとりあえず決めさせていただいてよろしいでしょうか。

ご意見無ければその場所でやらせていただきますし、資料5を拝見していただきまして、事務局から意見の提案ございましたら、お願い致します。

**事務局 坂本：**

事務局からは具体的な日程の提案はございませんが、今年は10月2日～3日に事業を行

っていきましたが、例年の山小屋の使用状況ですとか登山道の使用状況を考えまして、この辺りは混み合うので作業には合わない、この辺りであれば小屋にも泊まれるのではないかと等といった意見を皆様からいただけたらと思います。よろしくお願いします。

**代表 平田氏：**

それでは日程の検討に入らせていただきます。今事務局からお話しありました条件を踏まえていただきまして、ご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

**幹事 井上氏：**

日程を最終的に決める前に、今色々なご意見が出たかと思います。大きくは二つあったかと思うのですが、一つは現地の作業だけではなく、例えば麓でもう一度今までの技術などについておさらいをしてみようか、それから作業そのものだけではなく、自分たちでもできるモニタリングを指導してもらおう、やってみようなど、そのような直接現場作業に関わらない部分の一つあったかと思います。それから、1回に五十数名、六十人近い人間が1箇所、山小屋に泊まるというのは、色々な弊害をもたらしているということもございまして、朝日連峰で行った場合につきましては竜門の小屋と狐穴の二つの小屋に分宿をしております。また、大朝日小屋と竜門小屋に分宿した記憶もございまして。そのような部分を考えますと、メインは一つであったとしても、その他の小さなもの、サブ的なもの、日帰りでできるような部分ですとか、小規模なものも2, 3、ここでは決まらなくとも、そういうようなものも後ほどプラスをしていくような形ではどうか。大きくは二つの部分について行うかどうかということも、確認してから日程をしていただいてもいいのではないのでしょうか。

**代表 平田氏：**

只今井上さんから、現状を調査する仕事、あるいは麓で作業を勉強する機会、そのようなものが必要ではないか、というご意見でありますけれども、皆様方只今のご意見でいかがでしょうか。

ご意見ございませんでしたら、今のお話しを作業の計画の中に生かさせていただきまして、おおよその日程を皆さん方で本日考えていただきたいと思いますので、忌憚のないご提案をいただきます。

ございませんか。事務局はいかがでしょうか。

**事務局 坂本：**

はい。今までこちらで決めさせていただいてきましたが、既に日程を決めた段階で一年間山岳会の予定が入っているので、そのイベントを打ち合わせる為に行けません。もう少し早い段階できめてほしい、という意見がありましたので、今回は6月に決めるのではなく、こ

の場で皆様の、山岳会の予定を伺って決めさせていただきたいと思ったのですが、こちらで決めた方がいいのであれば、決めさせていただきます。いかがでしょうか。

**幹事 藤井氏：**

先ほどの川端さんの、今までやってきたところの検証と、またその中で勉強するというの  
が一つありましたし、また亀山さんの小屋が大変混み合うので分散してやったらどうです  
か、と言うお話もありましたし、日程は私共の会で申しますと既に年間の予定が決まっ  
ておりますので、日程はいつでもいいと思うのですが、小屋が混むというのは、1箇所  
に集中するというのはあまりよくないと思うので、例えば草月平で作業をすれば、時期  
的なことで言えば去年と同じ10月の第一週くらいが一番いいのではないかと思いますし、  
もし分散してもらおうということであれば、例えばこれまで丸森や梶川でやっている訳で  
ありますが、そこを検証しながら、また今までやってきたところでもまた崩れるところも  
あると思いますので、その辺の細かい修復も含めて二箇所くらいでやったらいかがかと思  
いまして、提案します。

**代表 平田氏：**

只今、藤井さんから日程の提案をいただきましたが、そのようなことでよろしいでしょ  
うか。

10月1日～2日に致しまして、その時に二箇所にして1箇所をモニタリングするという  
考え方ですが、いかがでしょうか。

**事務局 坂本：**

それは、草月平グループとこれまでやった箇所の二箇所に別れるということでしょうか。

**代表 平田氏：**

そのような提案です。

**事務局 坂本：**

先ほども川端さんからご意見ありましたが、最近新規の参加者が増えておりまして、整  
備のやり方がおぼつかない方が多いのです。その方達を指導できる方の人数も限られます  
ので、同日に二つ分けるのは難しいと思うのですが、その辺りご意見いただければと思  
います。二箇所やるのであれば、日程をずらすということも考えられると思いますが、同日  
に二箇所やるのか、日程をずらして二箇所でやった方がいいのか、その辺他の山岳会の皆  
様にご意見いただけたらと思います。

**代表 平田氏：**



いかがでしょうか。同じ日に二箇所やるのは物理的に出来ない部分もあるので、2回に分けたいという考えですが。

**幹事 井上氏：**

それでは、一案ですが、例えば10月1日～2日に草月平というようなことにして、9月中に一度天狗平ロッジでもベースにさせていただいて、土曜日に事前学習、理論学習、もしくは麓での学習。そのようなものを致しまして、日曜日にでも梶川、丸森に登って現地を見ながら補習。特に梶川の部分につきましては、少しずつ手直ししていくことによってよくなっていくということがございます。一度にやるのではなく、毎年少しずつ積み重ねていくといつの間にか侵食された登山道が元に戻っている、というようなことが顕著に見られておりますので、そのような積み重ねをやっていく。また、丸森尾根で今年やりました木組み、支障木を使った方法というものを更に完成化させていく、というような形で9月に一度土日やってはいかがと思うのですが。ただ、9月につきましては24日（土）～25日（日）が朝日連峰の保全作業の予定が決まっておりますので、それを外した曜日で決めていただければと思います。以上です。

**代表 平田氏：**

まず9月の日程を決める前に今、井上さんからご提案いただきましたが、10月1日～2日は稜線上で行い、9月には勉強会と検証を土日にやるという計画でございますが、これでもよろしいでしょうか。

（異議無しとの声）

では、他に皆様にもご賛同いただきましたので、2つに分けてやらせていただいて、9月の土日をご提案いただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

**幹事 本間氏：**

1ヶ月前の9月3日（土）～4日（日）がいいかと思いますが、いかがでしょうか。

**代表 平田氏：**

今のご提案いかがでしょうか。ただ、シーズンであるため混雑が気になります。

**幹事 井上氏：**

上に泊まるのであれば混雑が予想されますが、麓の天狗平ロッジに泊まって頂くような形であれば問題ないと思います。

**代表 平田氏：**

それでは、研修とモニタリングについては、9月3日～4日ということで、提案させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

ご意見無ければ、そのようにさせていただきたいと思います。確認いたしますが、9月3日～4日に天狗平を中心とした、技術講習・勉強会・モニタリング。10月1日～2日は上部で合同保全作業行う。このようなことで決めさせていただきましたので、よろしく願います。少し長くなりましたが、これで議題3を終わらして議題4その他に入らせていただきます。

#### 議題4 その他

代表 平田氏：

その他のことで、先ほど最初の方でお話しありました高齢者が増えて上部での仕事に参加が出来ない、というようなお話をされた団体もございました。このことについて、少しお話しさせていただきたいと思います。

まず高齢であり作業ができない、という話がありましたが、このことについて皆様にご意見いただきたいと思います。いかがでしょうか。

ご意見がございませんでしたが、私この会の代表を承っておりますので、このことについて私の考えを述べさせていただきたいと思います。皆様方にお配りしております会則を、資料6をご覧ください。第2条の目的をご覧くださいますと、必ずしも作業をすることだけが目的ではなく、保全活動を推進ということも目的の一つでありまして、推進というのは「私は年をとって行けないけれど、おまえら行け行け」と激励してやるのも推進ではないか、と解釈をすれば、私も今77歳というかなり高齢になっておりますが、それも目的に賛同するのではないかと思います。高齢になったならないの皆様方が保全連絡会から段々消えていくというのは非常に残念なことでありますので、そのように拡大・解釈したいと思っておりますけれどもいかがでしょうか。

(拍手)

幹事 井上氏：

今の代表の考えでよろしいと思いますが、保全連絡会の第2条後半の部分に「このため、飯豊連峰に関する様々な主体の保全活動が無秩序とならないよう、広範囲な関係者が様々な立場で連携・分担するための情報交換、意思疎通を図るものとする。」と銘記されております。今日のこの場で一番大事な部分はこの部分ではないだろうか、と思います。例えば先ほど、小荒井さんから非常に貴重なご助言をいただいた訳ですが、ただむやみやたらに突っ走ればいい、というようなことではなく、それぞれの色々な方々の知恵ですとか、やっちゃってしまってから後から「それは悪かった」と言われることのないように、みんなで十分議論をし尽くして、欠点等がありましたらこの会議で事前に「その部分はおかしいのでは

ないか」というような話をしていただいて、特に昔山を登っていたが、今は登れないというような話がありましたが、そのような人たちがいなければ、今山が昔と変わったのかどうか、侵食が進んでいるのかどうなのか、ということが分からないと思います。昔の姿を知っている人だからこそ、現状の部分について物事を整理して助言をすることができるのだらうと思います。そのような意味では、ここに行政の方から小屋の管理人ですとか色々な方々が参加されている訳ですが、それぞれの分野の方々と議論をぶつけ合い、あとから問題点が起きないように形で整理をしていくということが一番この会の大事な部分であると思いますので、そのような形で進めていただければと思います。以上です。

**代表 平田氏：**

ありがとうございました。それでは、高齢者であっても低年者であっても、この目的に賛同すれば死ぬまで関わっていく、というようなことでよろしいでしょうか。

(拍手)

ありがとうございました。それでは是非とも高齢者の方もご参加いただきたいと思います。それでは、事務局からその他の議題について、お願いします。

**事務局 坂本：**

はい、その他のご意見がない場合は、事務局よりお知らせさせていただきます。この飯豊連峰保全連絡会でございますが、平成20年2月23日に設立しまして、今年で設立3年となりまして、第5条にもございますとおり、今年度で代表と幹事は任期満了となります。次年度以降の代表や幹事の選任は会則第5条に基づき、第7回会合で決定したいと思いますので、会員の皆さまにおかれましてはその旨ご承知置きください。よろしくお願い致します。

**代表 平田氏：**

その他のことで、なにかございますでしょうか。

**幹事 井上氏：**

お手元の方に、登山者カードの様式というようにことで配らせていただきました。それから新しい様式について、という資料ですがお手元にっておりますでしょうか。

実は来月に新発田市におきまして、飯豊連峰を囲む三県遭難対策合同会議というのが、2月16日～17日に開催されます。実は昨年2月に山形県の飯豊町でその会合が行われました時に、現在の登山者カードについてですが、各市町村がバラバラなのです。それを見ますと記載のされている内容に不備があったりします。せつかくのことでございますので、私の方でも先ほど申し上げましたが、60何名どこから下ってどこに下ったのか分からない、という方がいらっしやいました。そのようなことを少しでも防ぎたい。更に記入率も更に

高めたい。その為にはいかに簡単に書いていただけるか、ということ工夫しようじゃないかということで、その試作品を作りましょうということで、私が案を作ることになりました。それで作成しましたのが、今お手元にある登山者カードでございます。これにつきましては、来たる2月の段階でその3県合同会議の中でまた報告をしたいと思いますが、また皆様からご意見を頂きながら、最終的にできれば統一をしてよりよい登山者カードという形にしていきたいと思っております。その部分で分析させていただいた結果につきましては、現在環境省でやっているカウンターと照らし合わせまして、より中身の濃い登山者の動きというようなものを皆さんにご提示できればと思っております。また今年の山の溪谷1月号を読んだ方もいらっしゃると思いますが、それによりますと登山者は全国では登山者は爆発的に増えているということでございます。つい1月22日に小国町出身で警視庁の山岳救助隊長の金さんの講演会を開いたのですが、その金さんも第三次登山ブームが来ている、登山者が非常に爆発的に増えている、という話をなさっていました。更にその中では、山と溪谷によりますと現在注目されている山ガールですとか、中高年の方だけでなく、30代～40代の男性、しかも単独行の方が爆発的に増えていると、山と溪谷に記載されておりました。そうしますと、現在の環境省のデータでは右下がり、減っているということになっておりますが、皆さんご存知のとおり飯豊の登山者は中央に行った事柄が、数年後に起こる。中高年の登山ブームもそうでありました。ということもあり、右肩下がりとは言ってられないという感じがしますので、その部分も合わせて登山者カウンターを補足する形で登山者カードを分析致しまして、皆様にご提供していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひ致します。私からは以上です。

**代表 平田氏：**

他にございませんか。ございませんでしたら、少し長くなりましたが、これで終了させていただきます。不慣れな司会で、予定よりも時間過ぎまして申し訳ありませんでした。高齢者の皆様方には貴重なご意見を賜りましてありがとうございます。次の会合で色々とお世話になると思っておりますが、よろしくお願ひします。本日は大変ご苦勞様でございました。感謝申し上げます。